

主 文

本件上告を棄却する。

理 由

弁護人豊川忠進、同広重慶三郎の上告趣意について。

しかし、原判決は、所論犯罪事実の認定については、被告人の供述の一部の外共犯者、被害者等の供述記載等をも証拠としたものであつて、被告人の自白を唯一の証拠としたものでないから、所論違憲の主張は、その前提を欠き、刑訴四〇五条に全然当らない。

よつて、刑訴施行法三条の二、刑訴四〇八条に従い、裁判官全員一致の意見で主文のとおり判決する。

昭和二六年一〇月二五日

最高裁判所第一小法廷

裁判長裁判官	齋	藤	悠	輔
裁判官	沢	田	竹	治 郎
裁判官	真	野		毅
裁判官	岩	松	三	郎